

論文審査の要旨

報告番号	総研第 679 号	学位申請者	元日田 和規
審査委員	主査	橋口 照人	学位 博士 (医学)
	副査	大脇 哲洋	副査 郡山 千早
	副査	田口 則宏	副査 出口 尚寿

Long-term clinical clerkship improves medical students' attitudes toward team collaboration

(長期間の臨床実習は医学生ของทีม協働に対する認識を向上させる)

医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、医師として求められる基本的な資質・能力の一つとして多職種連携能力を掲げている。チーム協働の医療を実践する上で、医師の多職種に対する自己認識の影響は大きい。本研究では、全ての医療職間のチーム協働に対する認識を測定可能で、Working relationship (12項目)と Accountability (8項目)の2つの下位尺度から構成される Jefferson Scale of Attitudes Toward Interprofessional Collaboration 日本語版 (JeffSATIC-J)を開発し、これを用いて複数の機関の医学生、医師を対象に調査を行い、我が国における医学生ของทีม協働に対する認識と関連因子を検討した。研究対象は全国7大学の医学生1年生(入学直後)、4年生(臨床実習前)、6年生(臨床実習後)、4大学病院の研修医(2年間の臨床研修終了後)、1大学病院の専攻医以上の医師である。医学生では大学、学年、性別ごとに、研修医では大学、性別ごとに、医師では性別ごとに JeffSATIC-J 得点の比較を行った。また、7大学の JeffSATIC-J 得点とチーム医療教育時間、臨床実習期間とのスピアマンの順位相関による解析を行った。

その結果、本研究で以下の知見が得られた。

- 1) 3017名にアンケートを配布し、有効回答数は2409名であった。
- 2) 医学生は JeffSATIC-J 得点は1年生が他の学年より、女性が男性より高かった。また、大学間で相違があった。
- 3) 研修医では、Accountability の得点で女性が男性より高かった。また、4大学病院間で相違はなかった。
- 4) 医師では、性別による相違はなかった。
- 5) 4年生の JeffSATIC-J 得点と4年次の Interprofessional Education (IPE) の長さには正の相関がみられた。
- 6) 6年生の JeffSATIC-J 得点と臨床実習期間の長さには正の相関がみられた。

日本の医学生は JeffSATIC-J 得点が海外の医学生より低い要因として、教育や文化的背景の他に、医業の分担などの専門職制度の違いが影響している可能性が示唆された。また、入学直後の医学生ของทีม協働に対する認識が高く、それが経年的に低下するのは医学・医療の高度化・細分化により習得すべき知識や技術が増加し、その学習に忙殺されてしまうカリキュラムが影響していると考えられた。チーム協働に対する認識の大学間差は大学の理念、カリキュラムなど教育や組織の体制が影響している可能性がある。4年生の JeffSATIC-J 得点は、4年次の IPE の長さとのみ関連しており、IPE の効果は短期的である可能性がある。一方、6年生の得点は臨床実習期間の長さに関連しており、長期間の診療参加型臨床実習は、医学生ของทีม協働に対する認識に良い影響を与える可能性が示唆された。

本研究は日本の国立・私立大学、地域性を考慮した上で一般化できる十分なデータ数の解析を行い、海外との比較で日本の医学生ของทีม協働に対する認識の現状を明らかにした。また、チーム協働に対する認識に影響する因子や卒前教育との関連を明らかにし、今後の医学教育に有用な情報である。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。